

(国語科)

## 自分の思いや考えをすすんで伝え合う子どもを育てる ～読む力の育成を通して～

大阪市立都島小学校 城下 朋子・西川 良子・北村 麻衣子

### 1. はじめに

本校では、「人間性豊かで、たくましい子どもを育てる」を学校教育の教育目標に掲げ、めざす子ども像を「自ら考える子・こころ豊かな子・たくましい子」とし、教育活動を進めている。

昨年度より本校の児童の実態から、全ての学習の基本である国語科を研究教科として研究主題『自分の思いや考えをいきいきと伝え合う子どもを育てる』副題を『国語科におけるコミュニケーションの場を通して』とし研究を進めてきた。昨年度の研究成果として、伝え合う学習形態や場の工夫によって、意欲的に学習に取り組む児童を育むことができた。

しかし、全国学力・学習状況調査では、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題が弱いことが明らかになり、国語の診断テストでも、相対的に読む力が十分に育っていないことが浮き上がりてきた。

そこで、本年度は昨年度の成果と課題を受け、「自分の思いや考えをすすんで伝え合う子どもを育てること」は引き続き研究を進め、様々な教科の学習の基礎となる「読む力」の育成に重点をしばって指導のあり方を探っていくことにした。そして、「読むこと」「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導との関連を工夫しながら取り組んでいくこととした。

### 2. 研究の内容

視点に沿って学年ごとに研究テーマ及び「めざす子ども像」を設定しなら、学年打ち合わせ、低・中・高学年部会、研究推進委員会、授業研究、研究討議会、指導研修会等を通して研究を積み重ねてきた。

#### (1) 研究の視点

- ①基礎・基本の力の育成
- ②自分の考えをもつための工夫
- ③交流の場の工夫
- ④読書環境の整備

#### (2) 実践例

##### ○2年生 物語文「お手紙」

- ・ 毎回の授業の初めに全文通読をすることで、大まかな物語の流れをつかみ、役割読みをすることで、人物の気持ちになりきって心をこめて読むことができた。場面ごとの一斉読み、一文ずつのリレー読みなど、いろいろな読み方を通して、内容理解とともに、物語にどんどん入り込むことができた。
- ・ 「だれが」出てきたか、その人物が「どんな気持ちか」に着目させ、気持ちが分かるところにサイドラインを引くようにした。その際、悲しい気持ちには青、嬉しい気持ちには赤と、色分けをしたことで、気持ちの変化に視覚的にもとらえさせることができた。
- ・ 人物の様子を想像して読む際には、挿絵を手がかりにすることや、ペープサートでの劇やお面を使った役割演技もとても有効だった。中でも児童はお面を使った役割読みが大好

きで、読み取った気持ちに沿って、登場人物になりきって読んでいた。

#### ○4年生 物語文「走れ」

- ・ 「運動会」という言葉から思い出す出来事や、連想する言葉をイメージマップに表現することにより「走れ」を読んでみたいという意欲をもち、運動会での思い出を振り返り、自分と重ね合わせて読み取れた。
- ・ 学習の手立てとなるワークシートを工夫し登場人物の挿絵と吹き出しをつくり、それぞれの人物になりきって気持ちを書けるようにした。登場人物の気持ちを表現することで、人物の気持ちについて考えられるようになり、深く読み取ることができるようになった。
- ・ ワークシートを隣同士で読み合い、全体で発表する前に隣同士の交流活動を取り入れたことで、自分の考えに自信をもち、進んで発表することができた。
- ・ 登場人物に同化して気持ちを書いてきたが、最後には物語からはなれて、自分自身の気持ちを書くために作者の村中李衣さんにお手紙を書くことにした。読解してきたことを自分なりに解釈している児童がたくさんいた。
- ・ 学習発表会では、「走れ」の音読劇に取り組み、物語を深く読み味わうことができた。登場人物の気持ちに共感しながら、家族の心のつながりを感じることができた。

### 3. 研究のまとめ

#### (1) 研究の成果

- 場面に合わせた音読活動を積み重ねることにより、どの児童もほどよい速さですらすら読めるようになり、音読自体を楽しむようになった。さらに、音読する機会が多くなり、物語の全体を見通すことができ内容を深く読み取れるようになった。
- 挿絵を活用したり、吹き出しに台詞にして書けるようにしたりするなど児童の実態に応じたノートやワークシートの工夫によって、全員が自分の考えをたくさん書くことができた。「書くこと」により、自分と向き合うことができ、思考力・表現力がついてきた。
- ペアやグループで交流することで、必ず全員が発表することができ、全体の交流も自信を持って発表することができ多様な意見が出るようになった。自分とは違う考えに気づき、交流することの面白さに児童自身が気づくことができた。また、ハンドサインや意見交換で、話し合いの基本的なルールがそなわり、全員が参加している意識が高まり、友だちの意見を聞く態度が身についた。

#### (2) 今後の課題

- 「書くこと」の力をつけるために、「書くこと」の単元だけでなく、日常的に書き慣れること、場に応じた多様な書き方の手立てのパターン化や何をどのように書くのか書かせる内容を厳選すること、書く時間を確保すること。
- 「交流」を深めること。まだまだ、発表して終わりになる傾向があるので、交流の仕方を分からせ、交流の時間を十分にとることが必要である。友だちの意見を聞いてさらに交流できるように深めていきたい。